

# 令和3年度学校運営連絡協議会実施報告

## 1 組織

### (1) 組織の名称

「令和3年度 都立小石川中等教育学校 21開拓委員会」(全日制課程)

### (2) 事務局の構成

事務局長(広報部主任)、事務局担当(広報部2名) 計3名

### (3) 内部委員の構成

校長、

副校長2名

経営企画室長

教務主任

生活指導主任

進路指導主任

国際部主任

SSH部主任 計9名

### (4) 協議委員の構成

東京国際大学教授 松本茂氏

日本科学未来館 松岡均氏

株式会社島津理化 梅田篤史氏

文京区立駕籠町小学校長 矢部明美氏

文京区立昭和小学校長 杉本謙氏

巣一商店会会長 中村安次氏

小石川中等教育学校PTA会長 塩川浩司氏

小石川中等教育学校PTA副会長 大久保文子氏 計8名

## 2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

### (1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和3年6月17日(木)(オンライン開催) 内部委員9名、協議委員6名

協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出

学校経営計画、各分掌からの学校の現況報告

本校の現状と課題等説明、意見交換

第2回 令和3年10月14日(木) 内部委員9名、協議委員5名

令和3年度学校経営計画進捗状況中間報告(1学期分)

学校評価アンケートの趣旨説明と協議、21開拓評価委員会の報告

協議:各分掌からの中間報告、本校の現状と課題について意見交換

第3回 令和4年2月18日(金)(オンライン併用) 内部委員9名、協議委員8名

学校教育診断アンケート集計結果報告及び学校経営に対する提言、

令和3年度学校経営計画進捗状況中間報告(2学期分)

協議:各分掌からの中間報告、評価結果についての協議及び学校経営に対する提言

### (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和3年6月17日(木)(オンライン開催) 内部委員1名、評価委員3名、事務局3名

学校運営連絡協議会設置要綱、令和2年度学校運営連絡協議会実施報告

今年度の学校評価の内容・項目の確認、協議会での提言について

第2回 令和3年10月14日(木) 内部委員1名、評価委員3名、事務局3名

学校評価アンケートの確認、本校と家庭・地域との連携への助言

第3回 令和4年2月18日(金)(オンライン併用) 内部委員1名、評価委員4名、事務局3名

学校教育診断アンケート集計結果の分析、学校経営に対する提言の検討

### 3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

#### (1) 学校評価の観点

ア 中等教育学校の完成年度である平成 23 年度から現在の形式で、生徒・保護者・教員及び地域を対象にアンケートを実施している。

イ 継続して調査した項目と、学校経営の重点項目として新たに追加・修正した項目がある。令和 3 年度は以下の 7 項目について修正または変更して実施した。

※Q4 課題研究のスキル（新規）、Q8 ICTの活用（新規）、Q9 リモート学習の取り組み（新規）、Q14 将来への効果（新規）、Q15 相談の機会（修正）、Q16 地域・社会への貢献（修正）、Q17 学校からの情報提供（新規）

ウ コロナ禍のため、地域対象のアンケートは教育活動に関わっていただいた方のみを対象を縮小して実施した。

#### (2) アンケート調査の実施時期・対象・回収率

ア 10月～11月 全校生徒 回収率98.7%

イ 10月～11月 保護者全員 回収率98.8%

ウ 11月 教職員 回収率100%

エ 12月 地域 回収率100%

#### (3) 主な評価項目

ア 保護者・教職員・生徒向け質問項目

本校が現在取り組んでいるソーシャルスキル（Q11）についての評価項目を新たに設定した。

[参考：生徒用]

Q1 本校は、小石川教養主義のもと、幅広くいろいろな内容を学べる学校であると思う。

Q2 本校は、理数教育に力を入れていると思う。

Q3 本校は、国際理解教育に力を入れていると思う。

Q4 本校では、小石川フィロソフィーの授業を通して課題研究のスキルが身につくと思う。

Q5 本校では、学校行事等を通じて私たちの主体性、協調性、創造性を伸ばすことができると思う。

Q6 本校は、体罰や暴言を防止するための取り組みが行われていると思う。

Q7 本校は、いじめを防止するための取り組みが行われていると思う。

Q8 本校は、授業の学習支援として、ICTの活用に積極的に取り組んでいると思う。

Q9 本校は、リモート学習において、Teams によるホームルームや授業、情報の発信などに積極的に取り組んでいると思う。

Q10 私は、本校での教育を通じて他者を尊重する考え方を学んでいる。

Q11 私は、本校の教育活動や学校生活を通してソーシャルスキル(社会や日常生活において出会う様々な問題や課題について、周囲と協力しながら創造的で効果のある対処をすることができる能力)が身についてきたと感じますか。

Q12 私は、あいさつや時間を守ることなど、社会的なルールやマナーが身についていると思う。

Q13 私は、熱心に授業や自宅学習に取り組んでいる。

Q14 私は、本校での教育が将来の自分を実現するために役立っていると思う。

Q15 私は、身近に悩みの相談ができる人や、その機会があると思う。

Q16 私は、いろいろな機会を通じて積極的に地域や社会に貢献したいと思う。

Q17 私は、学校から学校生活に必要な情報を受け取ることができていると思う。

Q18 私は、充実した学校生活を送っている。

Q18 の判断は次のどれによるものですか。(複数選択可) ①授業 ②部活動 ③友人 ④施設 ⑤行事

イ 教職員向け質問項目

「あなたは、計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底することにより、ライフワークバランスの実現を図っていますか。」の評価項目が平成 30 年度から追加設定されている。

ウ 地域向け質問項目

地域とかかわる行事や活動を行っているかについて、評価項目を 4 項目設定した。

#### (4) 評価結果の概要

ア 保護者・教職員・生徒向けアンケート

1 あてはまる 2 どちらかというにあてはまる 3 あまりあてはまらない 4 あてはまらない

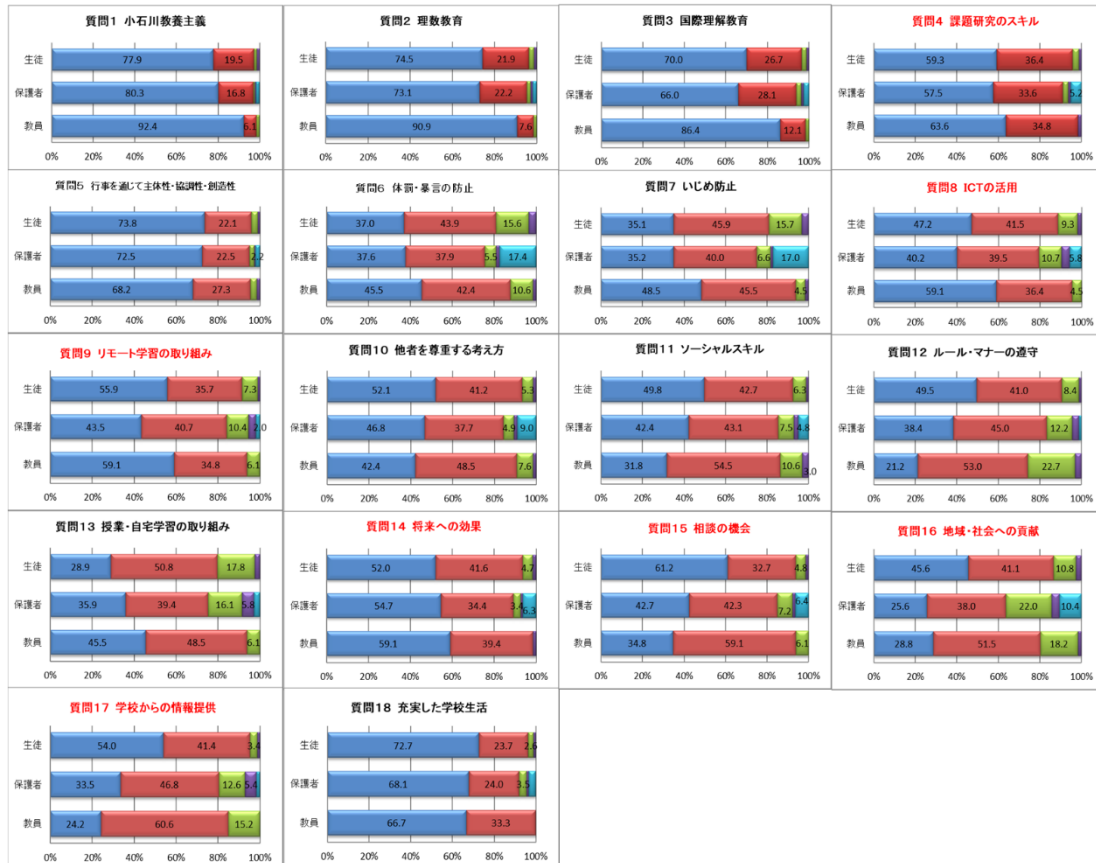
## 肯定的な意見の割合

	生徒	1+2	保護者	1+2	教員	1+2
100%	小石川教義主義	97.4	小石川教義主義	97.1	充実した学校生活	100.0
					小石川教義主義	98.5
					理数教育	98.5
	国際理解教育	96.7			国際理解教育	98.5
	理数教育	96.4			<b>課題研究のスキル</b>	98.5
	充実した学校生活	96.3			<b>将来への効果</b>	98.5
	行事を通じて主体性・協調性・創造性	95.9				
	<b>課題研究のスキル</b>	95.7	理数教育	95.3	行事を通じて主体性・協調性・創造性	95.5
	<b>学校からの情報提供</b>	95.4	行事を通じて主体性・協調性・創造性	94.9	<b>ICTの活用</b>	95.5
			国際理解教育	94.1	いじめ防止	93.9
	<b>相談の機会</b>	93.9			<b>リモート学習の取り組み</b>	93.9
	<b>将来への効果</b>	93.7			授業・自宅学習の取り組み	93.9
	他者を尊重する考え方	93.3	充実した学校生活	92.1	<b>相談の機会</b>	93.9
	ソーシャルスキル	92.6				
	<b>リモート学習の取り組み</b>	91.6				
90%	ルール・マナーの遵守	90.5	<b>課題研究のスキル</b>	91.1	他者を尊重する考え方	90.9
	<b>ICTの活用</b>	88.7	<b>将来への効果</b>	89.2	体罰・暴言の防止	87.9
	<b>地域・社会への貢献</b>	86.7	ソーシャルスキル	85.5	ソーシャルスキル	86.4
			<b>相談の機会</b>	85.0	<b>学校からの情報提供</b>	84.8
			他者を尊重する考え方	84.6		
			<b>リモート学習の取り組み</b>	84.2		
			ルール・マナーの遵守	83.4		
	いじめ防止	81.0	<b>学校からの情報提供</b>	80.4	<b>地域・社会への貢献</b>	80.3
80%	体罰・暴言の防止	80.9				
	授業・自宅学習の取り組み	79.7	<b>ICTの活用</b>	79.7		
			体罰・暴言の防止	75.6		
			授業・自宅学習の取り組み	75.3		
70%			いじめ防止	75.1		
			<b>地域・社会への貢献</b>	63.6		
60%						

※赤字は新たに追加・修正した項目

### 生徒、保護者、教員対象のアンケート集計結果

■1そう思う ■2ややそう思う ■3あまりそう思わない ■4そう思わない ■5わからない



生徒対象のアンケートからは、質問1「小石川教養主義」、質問2「理数教育」、質問5「行事を通じて主体性・協調性・創造性」であてはまるの回答が多い。5年間の経年変化からも常に前年度より増加していることがわかった。

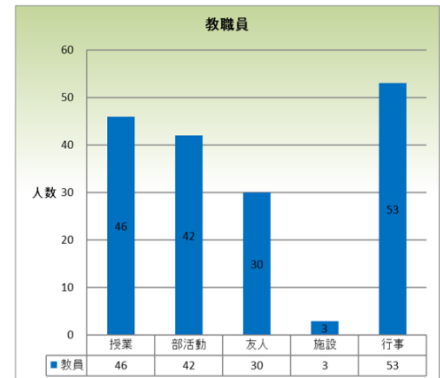
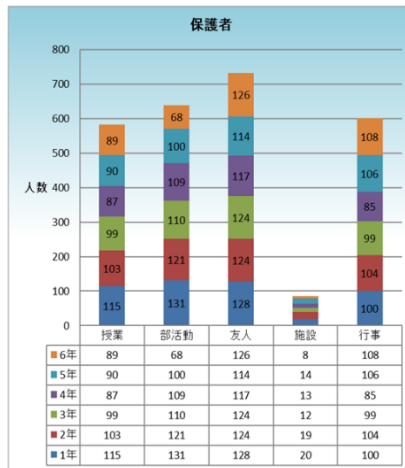
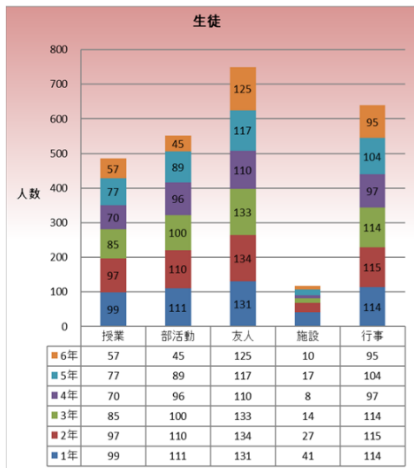
保護者対象のアンケートからは、質問8「ICTの活用」質問17「学校からの情報提供」質問9「リモート学習の取り組み」の否定的な回答の割合（あまりあてはまらない、あてはまらない）が生徒・教員と比較すると多く、全ての学年において補足欄には「お手紙をメールやホームページを活用して、ペーパーレス化を進めてほしい。」という意見が見られた。また、特に前期課程において、「コロナ禍で学校生活を見る機会がなく、学校の様子がわからない。」という意見も多く見られた。

教員対象のアンケートからは、質問6「体罰・暴言の防止」であてはまると回答した割合が昨年度と比較すると79.1%→45.5%と低下、質問7「いじめ防止」で否定的な回答の割合（あまりあてはまらない、あてはまらない）が一昨年度から、17.5%→7.5%→6.0%と減少した。また、質問13「授業・自宅学習の取り組み」は5年連続で肯定的な回答の割合が増加し、令和3年度は94.0%であった。

昨年度より保護者の回答に「わからない」を追加した。わからないの回答が多かった項目は以下の通りである。

令和3年度		令和2年度	
質問6 体罰・暴言の防止	17.4%	質問6 体罰・暴言の防止	24.6%
質問7 いじめ防止	17.0%	質問7 いじめ防止	23.7%
質問16 地域・社会への貢献	10.4%	質問14 挨拶の励行	12.6%
質問10 他者を尊重する考え方	9.1%	質問9 面談・面接の機会	7.71%
質問15 相談の機会	6.4%	質問13 他者を尊重する考え方	8.0%

(4)質問18「充実した学校生活」の内訳



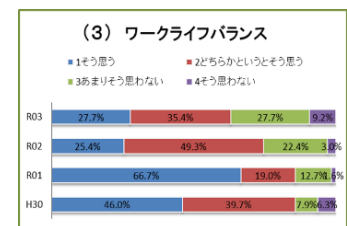
「充実した学校生活」の要因として、生徒は、友人（約79%）、行事、部活動の順に回答している。施設については12%と低い数値であった。

#### イ 教員対象のアンケート集計結果（経年変化）

「あなたは、計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底することにより、ライフワークバランスの実現を図っていますか。」という質問に対し、昨年度に引き続き「あまりそう思わない」「思わない」と回答した割合が増え、令和3年度は36.9%であった。

#### ウ 地域向けアンケート結果

今年度はコロナ禍のため、一部の近隣町会や近隣関係者、近隣小学校、1年生を対象に実施している東京寺子屋の講師（公益社団法人東京青年会議所文京区委員会）など15人にアンケートをお願いした。



## 4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

### (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

#### ア コロナ禍における教育活動

コロナ禍でも積極的に海外交流を行ったり、昨年度よりも教育活動を充実している点が評価できる。世の中もICT化しているので、コロナ後も必要なスキルとなるのでぜひ続けてほしい。

#### イ 学校教育診断アンケートの改善

質問項目を検討し、修正・追加した上で、コロナ禍であっても調査を継続したことは素晴らしい。

#### ウ 特別支援教育

都立中野特別支援学校との連携は素晴らしい。今後、成果の検証をするとよい。

## (2) 学校運営連絡協議会で寄せられた内容と課題

### ア ICTの活用について

ICTの活用はコロナが収束したあとも必須であることを念頭におき、何のために活用するのかを常に考えて判断する必要がある。対面がよいと決めつけず、対面とオンラインのそれぞれのよさを教育活動に活かしてほしい。

### イ 学校からの情報伝達について

紙媒体によるお知らせは保護者に伝わらないこともあるので、改善が必要である。

保護者会など保護者との連絡手段としてオンラインを利用することができるが、直接話を聞いてあげる機会を増やすことも大事であるので、様々な手段を使い分けるとよい。

コロナ禍で保護者が学校の様子を見られないのが残念である。また、国際部のイベント開催の案内や留学の応募方法等が保護者に伝わらないという話をよく聞いているので、情報提供の方法を検討してほしい。

保護者との連絡手段として、双方向の手段があるとよい。

### ウ 体罰・暴言の防止

数値が低くなったのはコロナ禍で取り組みと捉えられる活動が減ったか、保護者に見えていないからではないか。ネット、SNSの使用機会が増えることによって誹謗・中傷が増えないようにする取り組みをさらに強化するとよい。

## 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

### (1) 学校運営

新型コロナウイルス感染症対応の長期化によって、来年度以降も教育活動の制約が生じる可能性があるが、学校の組織的運営やOJTの推進による教職員の指導力の向上、ICTの活用など様々な方法を工夫して、教育活動の質の下がることのないように取り組んでいく。特に教育課程については、学習指導要領の改訂に伴う新しい教育課程となることから、「指導と評価の一体化」、「観点別評価の適正な実施」、「カリキュラムマネジメントによる教育活動の質の向上」など組織的に取り組んでいく必要がある。

小石川教養主義、理数教育、国際理解教育を引き続き推進するとともに、第4期SSHで計画している先端的な課題探究学習を全校をあげて推進していくとともに、その成果を地域に還元して地域連携を進めていく。

学校運営をめぐるICTシステム刷新され、後期課程での生徒一人一台端末が施行されることから、円滑に新しいシステムに移行していくことができるように、校内研修などを実施し、教職員のスキルを高めていく。

生徒、保護者への情報提供の方法を検討し、紙媒体だけではなくICTを適切に利用した連絡手段を組織として確立していくため、担当部署と学年との検討を進めていく。

### (2) 進路指導

調査書の記載方法に関する資料をまとめ、作成方法の統一を図ることができた。調査書の発行については、来年度も進路指導、教務、学年、経営企画室が協力して発行できる体制を継続していく必要がある。

進学する目的を生徒に考えさせ、進路希望を明確にする指導をとおして、進路希望を実現している生徒が増加した。難関国公立大学や医学部に進学を希望する生徒の進路実現を図るために、各教科での入試問題を分析し、次年度の進学指導に生かす取り組みを行っていく。

### (3) 学習指導

年間をとおして、研究授業や相互の授業観察を実施することで教員の授業力向上に努めた。多くの教員が参加して授業力向上に努めた。生徒にとって魅力ある授業を実施できることは、本校の教育活動の根幹である。ICT機器を活用した反転授業、ホワイトボード機能を利用した意見共有やグループ討議など、様々な工夫を行うことで、思考・判断・表現を高める学習活動に生かすことができている。今後もこうした努力を続け、指導と評価の一体化を図り、学習指導全体の質の向上を目指すことが求められている。また、後期課程で実施する観点別評価の精度を高めていくことが大切である。

### (4) 生活指導

コロナ感染予防を徹底することで、校内でのクラスター発生を防止し、通常の授業を継続実施することができた。次年度についても感染予防を継続する中で学校行事の充実を図っていく。宿泊行事を実施することができなかったが、次年度も計画に従って準備を進め生徒の学校生活への意欲を高めていく。

今年度始めた特別支援学級（通級指導）の成果から、来年度以降も取組を継続していく。また、ソーシャルスキルの重要性についても引き続き取り組んでいく。

(5) 地域連携

職場体験やSSH指定校として成果を普及する活動をとおして、地域との連携を図っていく。今年度は、新型コロナ感染症予防のため、満足いく活動は実施できなかったため、次年度は感染予防対策を行った上で実施を検討する。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
4人	3人	1人	0人	0人	0人	0人